

# キューバ訪問

平成 21 年 11 月 15 日 高橋 敦子

キューバを始めて訪問したのは 14 年前ですが、その訪問でのさわやかな印象が気持よく、以後今年で 4 回目の訪問をおこないました。

キューバの人たちには差別がない、誰もが顔を合わせると目で挨拶をしてくれます。言葉が不自由でも気持ちよく旅行できます。

今年 3 月の訪問で印象に残った治療について報告します。3 月 12 日フリオ・ディアス、リハビリ病院にて、筋萎縮症の女の子の治療を行いました。



(シメック病院にて治療)

お母さんから「なんとかならないか」と言われ言葉がありませんでした。今一番つらい症状を聞くと「便秘」で苦しんでいるとのことでした。鍼灸治療で今苦しんでいる症状を緩和し、すこしでも楽な状態で過ごしてもらうことが可能であることを説明し、治療を行いました。

同じ病院でもう一人左手が動くだけの車椅子の少年を治療しました。けんかで頭蓋骨をナイフで刺されて、ナイフが脳まで達したため全身が麻痺の状態になりました。

経絡積衆治療とお灸し、両手の井穴を刺絡しました。

3 月 15 日コマンダンテ・ピレナス病院にてガルシア・ロドリゲスさん（当病院長のご主人）の治療を行いました。

胃癌末期の方で「心化窩部が苦しく、ゲップがでる、食欲がない」と訴えていました。脈も速く、黄疸症状も出ており、目に力なくだるそうでした。体力が落ちているようなので、鍼の刺激は弱く短時間の治療で済ませ、お灸をしました。

3 月 16 日フィンレ研究所にて治療。ガルシア・ロドリゲスさんの 2 度目の治療をおこないました。その他数名の患者を治療。

3 月 17 日シメック病院にてガルシア・ロドリゲスさんの 3 度目の治療と肺癌の患者さんの治療をおこないました。

3 月 18 日シメック病院にて肩こり、腰痛の患者を数名治療し、ガルシア・ロドリゲスさんの 4 度目治療を行いました。4 日間の治療で体調がよくなり、食欲が少し出てきたと、本人、家族から感謝状をいただきました。許されるならばもう少し滞在し治療を続けたかったのですが、後ろ髪をひかれる思いで 3 月 19 日帰国の途につきました。

4 回目の訪問で、今回が一番ながく滞在しました。次の訪問では一つの病院に長期滞在し治療を継続して行いたいと思いました。1 回だけの治療では効果を見ることができないからです。



(フリオ・ディアス・リハビリ病院にて)